



「見る前に跳べ」



先日、ある随筆を読んでいたら、人間の歩き方とその国の民族性について書いてありました。その中で著者は、こんな言葉を引いて民族性の違いについて述べています。

イギリス人は歩きながら考える。

フランス人は考えた後で走り出す。

スペイン人は走ってしまった後で考え出す。 やないはらいさく
(矢内原伊作『歩きながら考える』)

それぞれの民族性の違いを揶揄^{やゆ}してなかなか面白いと思いました。慎重にゆっくり考えながら歩くイギリス人、じっくり考えた後で、こうと決めたら歩くのではなく走り出すフランス人、何も考えずに無鉄砲に走り出し、走った後でその結果を考えるスペイン人というように各国の人々の民族性を見事に表現した言葉です。

では、日本人はどうだろうかと考えました。日本人はイギリス人のような現実性を特に持っているわけではなく。フランス人のような思考性を持っているとも言えません。かといって、スペイン人のような情熱的な行動性を備えているわけでもありません。強いて言えば、こんな風でしょうか。

日本人は他の人が歩いているのを確認してから歩き出す。

もちろん、現代は、単純に民族性や国民性を区分け出来るような時代ではないかもしれませんが。グローバルな世界に住む人達は、時にイギリス人のように、またフランス人やスペイン人のように、そして日本人のようにふるまうことが必要なのかもしれません。しかしながら、それぞれの国民性の根底にはまだ、独自のものを持っているのではないのでしょうか。

ちなみに好きな詩人の一人、W・H・オーデン(彼はイギリス人ですが)は、言っています。

危険の感覚が消え失せてはならない

たとえここからはどんなに緩やかに見えようとも

君の行く道は短く険しいのだ

見たいなら見るがいい、でも君は跳ばなくてはいけない (W・H・オーデン『見る前に跳べ』)

前後左右を見渡しながら生きるのはもちろん必要ですが、ここという時には跳ばなくてはならないと彼は言います。みなさんが自分の進む道を考える時、ぜひこの言葉を参考にしてほしいと思います。